

# PSD 協会

令和 8 年 1 月 15 日 zoom 会議事録

書記 松江光弘

日時 2026 年 1 月 15 日 (水) 19 時～20 時 30 分  
会場 ZOOM 開催  
出席者 川島 哲会長、片岡 均副会長、中野 進也副会長、齊藤 篤史専務理事、  
佐藤 洋久常務理事、五十嵐 尚美理事、北浦 純理事、清水 一弘理事、  
南木 康広氏、松江 光弘理事  
座長 中野進也副会長

## 会長挨拶 健康状況と近況報告

- 川島先生が 12 月 21 日に大阪 SJCD セミナー室でノートブックパソコンを持って控室に入ろうとした際に段差で転倒し、膝の骨の一部が欠ける怪我を負った。MRI 検査の結果、欠片の清掃手術が必要で、1 月 19 日から 22 日まで入院予定。歩行や運転は可能だが手術は避けられない。
- 昨年は他にも 2 回転倒しているが、大事には至らなかった。78 歳を迎える年齢であることから健康管理の重要性を強調。
- 新年の挨拶とともに、怪我の報告と健康への配慮を参加者に伝えた。

## 大阪 SJCD の研修会とインプラント教育の現状

- 大阪 SACD の研修会は若手中心でインプラントに熱心な受講生が多いが、デンチャーに関する知識は今後の課題とされている現状。
- 高齢者のインプラント治療の限界について説明。介護施設入所後にインプラント周囲炎の管理が困難なため、多くの場合インプラントは入所前に撤去され義歯に切り替えられることが誠実な対応策である。
- インプラントは若年期の選択肢としては有効だが、高齢者もしくは骨量の少ない患者さんには適用が難しい現実を共有。
- デンチャーは補綴学の学問範囲が非常に広く、初心者がすぐに習得できるものではないことも強調。

## PSD の現状と課題、組織運営について

- 川島セミナー卒業生が PSD の幹部や活動の中心を担っているが、組織としての継続的な実技研修や活動が不十分。
- 実技研修会は川島先生、中野先生、黒松さんらが中心だが、他の役員の活動参加が少なく、理事の主体的活動に片寄りが生じているので、担当理事の整理や役割見直しが必要との指摘。

- PSD は、歯科医師と歯科技工士が協力し合う体制を目指しており、これが今後の発展に不可欠。
- 組織の活性化と役員の責任感向上を課題とし、患者思いの歯科技工医療人としての理念を再確認。

## Bego 社とのトラブル報告

- 2009 年に Bego 社で開催した川島セミナーの際に展示品（プラチンロイドのゴールド床）の一時返却を求めているが（ワイヤークラスプを付与したい為）、Bego 社側が預かっていると主張し、返却が滞っている。
- Bego 社の現経営陣の対応に不信感を持っており、証拠資料の収集と対応策を検討中。
- iCAST 社に対しても協力的でないため、今後の協力関係が微妙な状況。

## 2026 年度の主な活動計画とイベント案内

- 4 月号の月刊歯科技工にテクニカルコンテストの掲載を予定。写真と文章は 1 月末までに提出。
- 7 月 18・19 日にリーダー育成コース開催予定。定員 7 名で現在 4 名申し込み済み。残り 3 名のみ。
- 第 27 回 PSD 学術大会は 9 月 26・27 日に神田で開催予定。土曜日は 13 時～17 時、日曜日は 10 時から 16 時。土曜日の昼食は各自持参、もしくは済ませてくること。
- 土曜日は、川島先生の営業スタイルや歯科医師とのコミュニケーション、料金設定など実務的な内容を中心に講義予定。
- 日曜日は実技デモ中心のプログラムにし、川島先生のデザイン、伊藤さんらのワックスアップ実演を含む。
- 参加者からは実技デモの好評を受け、原点に戻った実習形式の再教育の場としての大会運営を目指す。
- 案内は遅くとも 7 月までに発行予定。

## テクニカルコンテストの現状と改善点

- 適合の悪さが指摘されている模型写真の撮り直しを検討。
- 川島先生がコンテストの答え合わせとして自身の作品を展示予定。研磨作業は膝の手術後に行う。
- 適合の重要性を強調し、営業トークに加えて適合改善の話も大会で取り上げる予定。
- 適合改善の方法は複雑であり、南木さんの技術を紹介することも検討。

## 支部制度の提案と会員交流促進

- PSD 会員の地域別支部設立を提案。東北、関東、中部、関西、九州の 5 支部を想定。
- 支部は定例会や症例相談、情報交換の場として機能し、会員の技術レベル向上と大会参加率の向上を目指す。
- 支部長、補佐、顧問を設置し、3 役が人選を行う。
- 支部活動はまずは緩やかに懇親会や交流会から始め、徐々に活性化を図る方針。
- 会員名簿を都道府県別にデジタル化し、会員間の連絡を容易にする案も検討中。
- 支部活動の課題として参加者の少なさや熱量の差が懸念されているが、まずは試行し改善を重ねることが重要とされた。
- 支部活動の情報は SNS や商業紙で発信し、PSD の認知度とブランド力向上に繋げる計画。
- 関東支部は特に難しい地域として認識されているが、関係者の協力で活性化を目指す。

## 今後の予定と次回会議

- 次回 Zoom 会議は 2026 年 2 月 27 日に決定。議題は第 27 回学術大会の詳細と支部制度の進捗報告。理事は必ず参加する事、やむを得ない事情の場合は、必ず本部事務局へ連絡する事。
- 適合改善の具体的な方法やアタッチメント破損時の対応についても今後の議題に含める予定。
- 会議の最後に川島先生の手術（ひざ）の無事を祈りつつ閉会。